

CS こひつじ科礼拝式次第

2022年6月26日 午前9時30分

2022年度年間テーマ：「イエス様の祈り『主の祈り』によって、祈ることを身につけよう」

テーマ曲：ワワワいっしょに（92番）

暗唱聖句：「神はわたしの避けどころ、わたしの砦。苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。」

詩編 46編2節

8、せいなる（こどもさんびかをお用いください）

おいのり 礼拝に招かれたことを感謝しましょう

せいしよ 創世記 11章 1-8節

世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた。

東の方から移動してきた人々は、シナルの地に平野を見つけ、そこに住み着いた。

彼らは『レンガを作り、それをよく焼こう』と話し合った。

石の代わりにレンガを、しっくい代わりにアスファルトを用いた。

彼らは『さあ、天まで届く塔のある町を立て有名になろう。

そして全地に散らされることのないようにしよう。』と言った。

主は降ってきて、人の子らが立てた、塔のあるこの町を見て言われた。

「彼らは一つの民で、皆一つの言葉を話しているから、このようなことをし始めたのだ。

これでは彼らが何を企てても、妨げることはできない。

我々は降って行って、直ちに彼らの言葉を混乱させ、互いの言葉が聞き分けられぬようにしてしまおう。」

主は彼らをそこから全地に散らされたので、彼らはこの町の建設をやめた。

こういうわけで、この町の名はバベルと呼ばれた。

主がそこで全地の言葉を混乱（バラル）させ、また、主がそこから彼らを全地に散らされたからである。

おはなしとおいのり

「バベルの塔」

佐藤紀子先生

急に暑くなったり、大雨が降ったり、びっくりするようなお天気になっているこの頃ですね。

みなさんお元気ですか？

きょうも一緒に聖書のお話を聴きましょう。

教会学校ではしばらく、旧約聖書から神さまのお話を学んでいます。

天地をつくられた神様の大きなみわざ

人間を創造されたこと

エデンの園でアダムが罪をおかしたこと

救いの約束

カインが弟アベルを殺してしまったこと

ノアの箱舟のお話。

どのお話もとても大切なお話ですね。

教会学校の絵本もありますから、ぜひそちらも読んでみてくださいね。

それでは、今日は「バベルの塔」のお話をします

ノアの箱舟でお話のあった洪水の後、神様は地上に人間を増やしてくださいました。

でもひとが増えてきた中で、神様を信じるより自分の力や知恵を誇る人が増えてしまったのです。そんな人たちは、天におられる神様に近づき、追い越してやる！という気持ち。神様と自分たちとどっちが力があるかなんて、神さまと力比べをしたくなってしまったのです。それで天に届くような高い建物を作り始めたのです。

どんどん、どんどん、もっと、もっと、高く、高く、塔をつくっていったのです。

神様に頼らなくても、じぶんたちでこんなにできるんだぞ！と自分の力を誇ったのです。

その勢いは止まらなくて、まるで自分を神様と同じとかんちがいをしてしまったのですね。

ひとは神様からはなれてしまうと、まちがった方向にすすんでしまいます。

神様からはなれ、自分の力を誇る高ぶった気持ちでいっぱいになっている人間は、生きる本当の目的が分からなくなり、自分の命を失うことになってしまうのです。

神さまと同じ、いえ神さまより強くてえらくなろうとしていた人間に対し、神さまは神さまのお力でまちがっていた人間の行いを、止めようとされました。それは、ことばが通じなくなるという不思議なお力を示されたのです。人は一緒に何かをする時には言葉で伝えます。ことばがわからないと相手の気持ちもよくわからなくて、困ってしまいます。皆さんもよその国の言葉で話をされたら、よくわからないですよ

ね。
この時の人たちもことばが分からなくなったので、天に届くような高い塔を建てるということができなくなってしまったのです。この混乱した状況を「バベル」と言います。バベルの塔というのは、「混乱した塔」なのです。この混乱は、人が神さまのかかわりを必要ないと思って、神さまから離れていった人間のことも意味しています。神さまを忘れて、神さまから離れていった人間なのに、神さまはことばがわからなくなるという方法で、これ以上わるくならないように、人間を助けてくださったのです。

そしてその後、世界中に散らばってしまった人の中からアブラハムをおこしてくださり、やがてその子孫から救い主イエス様をわたしたちのために、送ってくださいました。

わたしたちが生きるのは、神さまを知り、神さまを喜び、神さまの栄光を表すためです。これが私たちの喜びであることを心にしっかりときざんでおきましょう。

バベルの塔にかわるものがたくさんあって、自分の力を誇ってしまいます。

みなさんは、バベルの塔を建てていた人と同じ間違いをしないよう聖書の学びをつづけましょう。

礼拝をまもって神さまを讃美し、祈り、神さまの言葉に声に耳を傾けましょう。神さまからはなれず、つながっているとき、神さまを1番とし、神さまの栄光を表す生き方ができるのです。

<祈り>

天の父なる神さま、きょうも私たちは、自分が一番であると誇るよりも、神さまを一番とすることができ

るように、お導きください。そして、神さまとつながり続け神さまの栄光を表すことができるようにお助け下さい。

* 小さなお子さまには、話の内容等をわかりやすく、年齢に合わせて噛み砕いてお話くださいますようお願い致します。

(けんきん) 会堂2階掲示板下の机に献金箱を設置しました。

おいでの際におささげください。

62, 海とそらつくられたしゅ (こどもさんびかをお用ください)